

2 保育所・幼稚園、学校における子どもの読書活動の推進

【基本方針2】

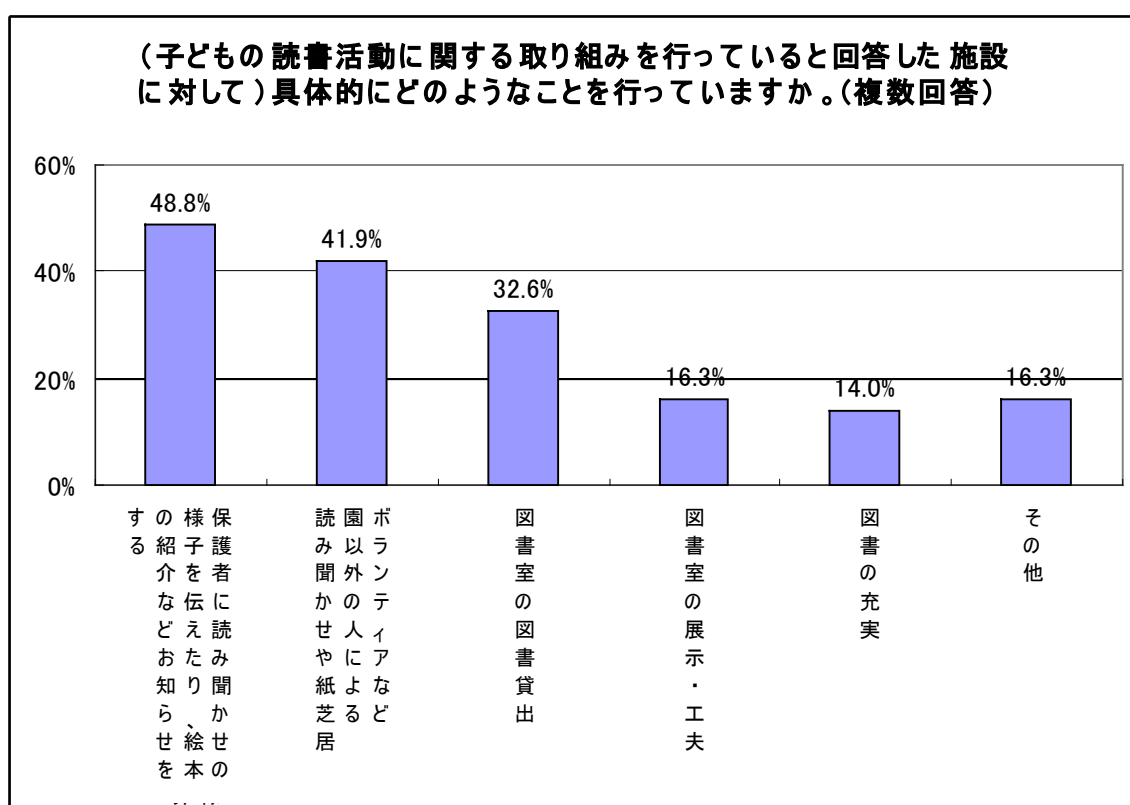
(1) 保育所・幼稚園の役割

子どもたちは、家庭を基盤とした地域社会の中で様々な経験を積み重ねながら成長していきますが、保育所や幼稚園は、初めて集団生活を行う場面です。そこでは、就学前の子どもたちが日常生活を通して読書習慣が形成されるよう、絵本や物語などに親しむ取り組みを行う役割を担っています。

【現況と課題】

ほとんどの保育所や幼稚園で、乳幼児に対する絵本や物語の読み聞かせが日常的に行われています。こうした施設では、自由に図書に触れることができるスペースを確保するとともに児童図書の整備・充実を図り、そこでの読書体験が家庭での読書に繋がっていくことが期待されます。

また、アンケートによると子どもの読書活動に対する取り組みは行っているものの、保護者に対する読書の意義や重要性を伝えている施設はそのうち半数以下であり、十分な啓発が行われていないことがわかります。



子どもの読書活動に関する取り組みを行っている施設(n=41)を集計

「子どもの読書活動に関するアンケート」

【取り組みの基本方針】

保育所や幼稚園では、子どもの年齢や発達段階に応じた読み聞かせを行うとともに、保護者に対して乳幼児期から読書の意義や重要性を伝えます。市では、保育士や幼稚園教諭が読書の大切さと必要性を理解しながら

読み聞かせの技術を習得できるように、研修の実施や読書に関する情報提供などの支援を行います。

【具体的な取り組み】

① 年齢や発達段階に応じた読書指導の推進

日常の保育の中で、子どもの発達や興味・関心に応じた読み聞かせなど児童図書を活用した指導を推進します。

② 保護者に対する子どもの読書活動の意義や重要性の啓発

保育所や幼稚園で配付する園だよりやチラシを活用し、読み聞かせの様子や優良図書を紹介しながら、読書活動に関する意義を保護者に伝えます。

③ 保育士や幼稚園教諭に対する読書活動の指導や研修の充実

読み聞かせの技術向上や子どもの読書に関する情報を得られるように、研修機会の充実を図ります。

④ 児童図書の整備・充実と情報の共有化

図書館の※リサイクル本の配布や※団体貸出を活用し、絵本や紙芝居等児童図書の整備・充実を図ります。

【重点施策】

重点施策	目標指標	現況	目標値
◆年齢や発達段階に応じた読書指導の推進	読み聞かせ実施率 *日常的に読み聞かせや紙芝居などを実施している園の割合	96.1%	100%

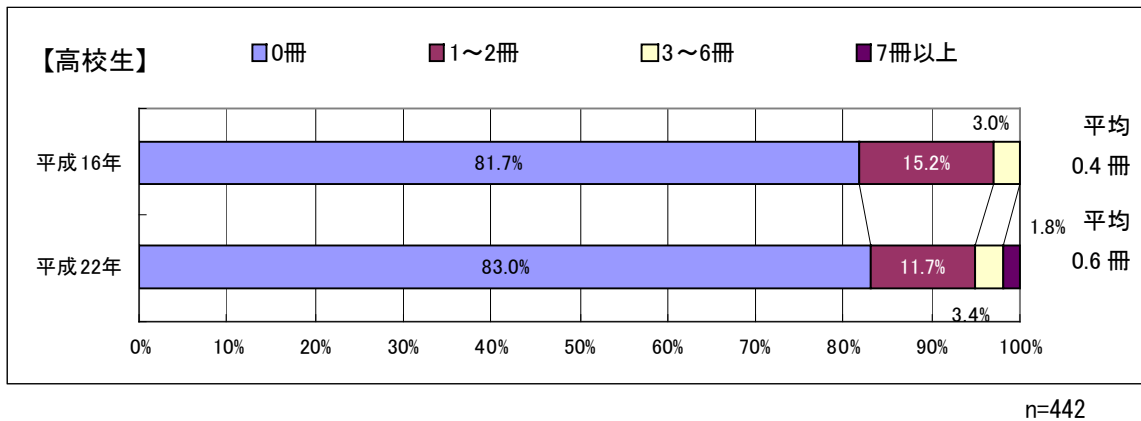
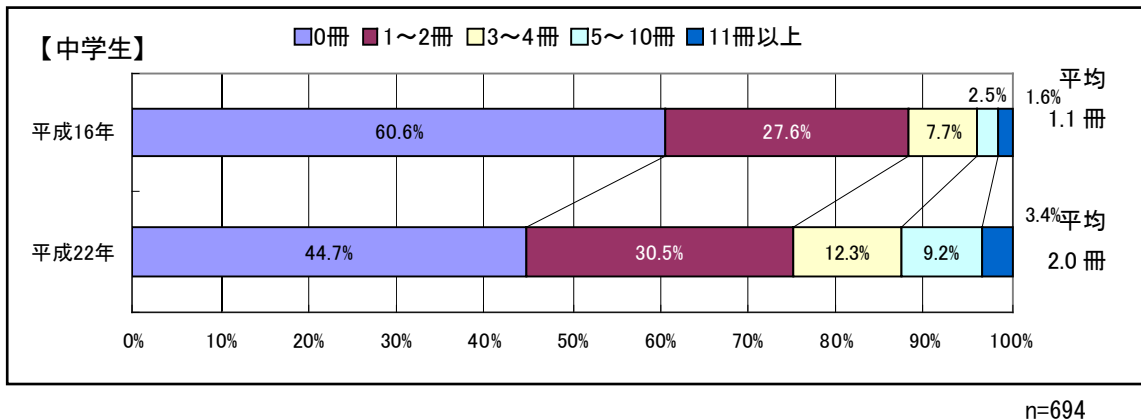
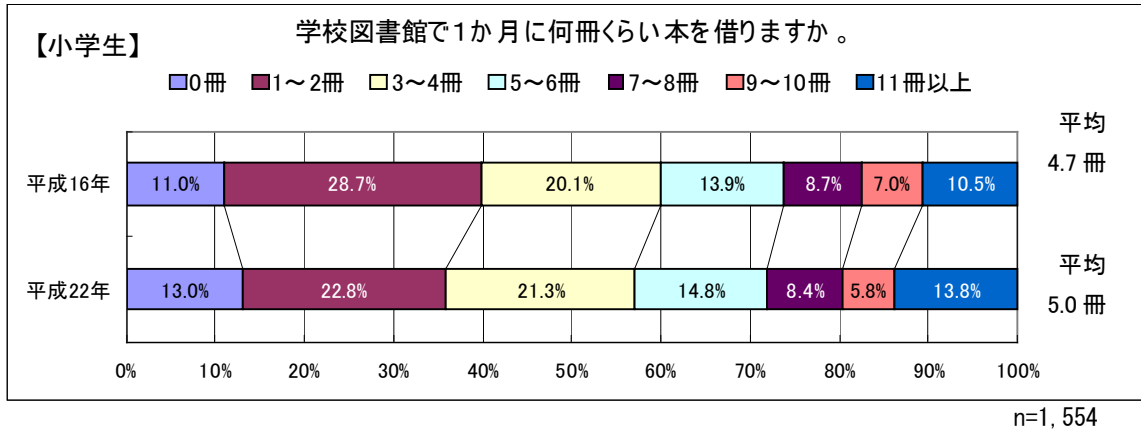


読み聞かせボランティア育成講座

(2) 学校の役割

学校教育法では、義務教育として行われる普通教育の目標の一つとして、「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと」が規定されています。

そのため、学校は各教科・特別活動・総合的な学習等の時間における調べ学習の推進や学校図書館を活用した教育活動の展開など、子どもの自主的な読書活動を支援する必要があり、生涯にわたる子どもの読書習慣を形成していく上で大きな役割を担っています。



「子どもの読書活動に関するアンケート」

【現況と課題】

「朝の読書タイム」は、すべての小学校と約96%の中学校で実施しており、一日のはじめに読書をして落ち着いて過ごすことにより、学習への心構えができるといった効果があることが認識されています。こうした取り組みにより学校図書館の貸出冊数が増加している一方、1か月間に全く本を読まない小学生が0.6ポイント、高校生が12.5ポイント増加するなど子どもの読書習慣が二極化している傾向があります。

また、学校図書館の図書資料の選択・収集や子どもに対する読書指導を行うためには、司書教諭や学校図書館司書が中心的な役割を担っていますが、学校図書館司書については中学校を拠点として複数校を巡回しているため、学校図書館の運営に多くの時間を割くことが難しいのが現状です。

学校図書館は、子どもたちにとって気軽に読書を楽しめる身近な場所です。蔵書の充実、コンピュータの整備や利用時間の拡大などにより、子どもたちが利用しやすく、快適な読書環境の整備を図ることが必要です。

【取り組みの基本方針】

学校では、読書の時間を確保し、教員が読書活動の必要性を共通認識した上で読書指導を行うというように、学校全体で子どもの自主的な読書習慣の形成に関わっていくことが大切となります。また、司書教諭や学校図書館司書が中心となり、ボランティアとの協働を進めながら「人のいる、開かれた、利用しやすい学校図書館づくり」を推進していきます。

市では、国の「*学校図書館図書整備計画」を踏まえ、学校図書館図書標準の達成を目指して、引き続き図書資料の計画的な整備を促進することで、魅力ある蔵書を揃えた学校図書館の充実を図ります。そして、各校の図書資料が効果的に活用されるよう、学校図書館のネットワーク化実現に向けて検討を進めます。

【具体的な取り組み】

① 読書時間の確立と読書指導の充実

子どもたちが自主的に本に親しみ、読書を楽しむ習慣が身につくように「朝の読書タイム」を確立し、読書指導を充実させます。

② 学校関係者の意識高揚

教員が読書活動の持つ意義や効果を共通して認識し、学校教育活動に活かせるように努めます。

③ 家庭や地域と連携して取り組む読書活動の奨励

地域住民との連携・協力により、子どもたちが利用しやすい学校図書館の整備に努めることで、読書活動を奨励します。

④ 学校図書館の機能や設備の整備・充実

コンピュータの整備やインターネットの接続など学校図書館の機能の充実を図るとともに、快適な読書環境の整備に努め、子どもの調べ学習などの活動を支援します。

⑤ 学校図書館の図書資料の整備・充実とネットワーク化の推進

子どもの年齢やニーズに応じた図書の充実や計画的な整備とともに、他校とネットワーク化による図書資料の効果的な活用を図ります。

⑥ 地域連携による住民への開放

学校図書館の親子での利用など、地域連携により開かれた学校図書館を目指します。

⑦ 学校図書館司書の充実とボランティアとの協働の推進

子どもの読書相談に応じることができるよう、学校図書館司書の充実に努めるとともに、ボランティアと協働で利用しやすい学校図書館づくりを進めます。

【重点施策】

重点施策	目標指標	現況	目標値
◆ 読書時間の確立と読書指導の充実	朝の読書実施率 * 授業開始前などの時間に、日常的に読書を実施している学校の割合	97.3%	100%
◆ 学校図書館の図書資料の整備・充実とネットワーク化の推進	学校図書貸出冊数 * 学校図書館における年間図書貸出冊数	冊 846,788	冊 950,000



中学生の職場体験（中央図書館）